

# 令和2年度 『税に関する児童生徒の習字・作文集』

東濃西部納税貯蓄組合連合会や、多治見税務推進協議会、多治見税務署管内租税教育推進協議会、(一社)多治見法人会、そして多治見税務連絡協議会が協力して令和元年度『税に関する児童生徒の習字・作文集』を発行し、学校や図書館に寄贈、また、市役所や町役場の玄関・ロビーに優秀作品が展示されました。

多治見法人会長賞には、陶都中学校1年 小島耕太郎さんの作文「世の中を支えている大切なもの」と、帷子小学校4年 中野由菜さんの習字が選ばれました。



一般社団法人多治見法人会長賞



帷子小学校 4年  
中野 由菜 さん

一般社団法人多治見法人会長賞

## 世の中を支えている大切なもの

陶都中学校 1年 小島耕太郎 さん

「税抜」。お使いに行くとき、僕がよく見かける。だいたい値札に書いてあると思う。去年、十月に税率が10%になったから、百円の物を買うと、百十円はらうということだ。値札には「百円」と書いてある。残りの十円はどこに行ったのだろう。何に使われているのだろう。その疑問から、僕は税金について調べ始めた。僕が調べ始めたのは、「どこで税金が使われているか」だ。調べていくうちに、意外な場所で税金が役に立っていることが分かった。

一つ目は、よくみんなが遊んでいる、「公園」だ。公園の遊具、自然、安全面の管理の費用は、全て税金を使っているというのだ。ふだん、何気なく遊具は、僕達にはらっている税金が使われていたことに驚いた。小さな子供達が遊んでいるのを見ると、心が暖かくなる。

二つ目は、病気になった時や、けがをした時に行く「病院」だ。この前、けがをした時にお母さんと病院に行った。その時、お母さんに病院に行くと、どれくらいのお金があるのか聞いてみた。すると、意外な答えが返ってきた。「中学三年生まではお金がかからないのよ。」と。どうしてお金がかからないのだろう。家に

帰ってから、インターネットで市のサイトで調べてみた。すると、ここでも税金が使われていることが分かった。人々の健康を守るために使われていると思うと、やはり税金は必要なものだと感じた。

しかし、少し疑問に思う使われ方もあった。日本には自衛隊が存在する。日本の安全を守ってくれている。その分、たくさんの兵器を買うことになる。その中でも、戦とう機の値段が、目をうたがうほどに高かった。平均だけで、三百億円以上するというのだ。一番高い物は、約二兆円するという。そのお金を、災害で苦しむ人や、世界中の難民に配ったら、一体どのくらいの人々が救われるだろう。他の使い道をすれば、もっとよりよい世界になるのではないだろうか。

今まで税金について調べていくうちに、今まで僕の知らなかったことが分かってきた。何気なくはらっている税金が、日本のために、世界のために、よりよい未来のために、使われていくことを考えると、日本の世の中を下から支えているのは、税金なのかもしれない。